

浅野家歴代一覽

浅野家 (浅野家 広島藩主)	名前 (生没年)	広島藩主 在位期間	法号	室 (生家)	室の 法号	ことば
初	長政(ながまさ) 天文16年(1547年)～ 慶長16年(1611年)	-	伝正院	末津(まつ)姫 (杉原家)	長生院	浅野家初代。室・末津姫は北政所(秀吉正室)の妹。秀吉の相婿にあたるため、若くから秀吉に仕える。秀吉政権で重きをなし、五奉行となる。
2	幸長(よしなが) 天正4年(1576年)～ 慶長18年(1613年)	-	清光院	奥米(よめ)姫 (前田家) 因幡姫 (池田家)	養泉院 慶雲院	長政嫡男。関ヶ原の戦いの功により、和歌山城主となる。豊臣武断派七将の一人とされ、砲術家・稲富一歩について砲術を学び「天下第一」と称される。また、家臣上田宗箇を通して古田織部に茶の湯を学ぶなど、文武に秀でていた。
3 (初)	長晟(ながあきら) 天正14年(1586年)～ 寛永9年(1632年)	元和5年 (1619年)～ 寛永9年 (1632年)	自得院	振(ふり)姫 (徳川將軍家)	正清院	長政次男。浅野家初代広島藩主。元和5年(1619年)、和歌山から広島に転封。家康の三女・振姫を正室に迎える。元和・寛永期に、町方・郡方の支配体制を整える。
4 (2)	光晟(みつあきら) 元和3年(1617年)～ 元禄6年(1693年)	寛永9年 (1632年)～ 寛文12年 (1672年)	玄德院	満(まん)姫 (前田家)	自昌院	家康の外孫で、三代將軍家光の従兄弟にあたる。庶兄長治に5万石を分治し、三次支藩を立てる。広島東照宮を建立した。
5 (3)	綱晟(つなあきら) 寛永14年(1637年)～ 寛文13年(1673年)	寛文12年 (1672年)～ 寛文13年 (1673年)	天心院	寵(いつ)君 (九条家) 八代君 (九条家)	芳雲院 称専院	神田山の山莊「日新館」にて、修学や來客接待を行う。37歳の若さで没し、藩主在位期間は約9か月と短い。
6 (4)	綱長(つななが) 万治2年(1659年)～ 宝永5年(1708年)	寛文13年 (1673年)～ 宝永5年 (1708年)	顕妙院	貴(あて)姫 (當姫) (徳川家(尾張))	馨香院	15歳で家督を継ぐ。藩財政の窮乏が始まり、儉約令の發布や、藩財政の強化等を行った。赤穂事件が起こり、事件への対応を迫られる(赤穂浅野家は分家)。歴代藩主の中でも書画に優れ、特に丹青の技に長じていた。
7 (5)	吉長(よしなが) 天和元年(1681年)～ 宝暦2年(1752年)	宝永5年 (1708年)～ 宝暦2年 (1752年)	体国院	節姫 (前田家)	源光院	治世は歴代藩主の中で最長の44年。職制や財政の改革を自ら主導した浅野家中興の祖。幕府の儒官から「当代の賢侯第一」と評された。好学で、本格的な武士教育を目指して講学所(講学館)を開設する。
8 (6)	宗恒(むねつね) 享保2年(1717年)～ 天明7年(1787年)	宝暦2年 (1752年)～ 宝暦13年 (1763年)	鶴阜院	喜代姫 (前田家)	宝仙院	藩財政の苦境が続くも、吉長に続き藩政改革を更にすすめ、節儉政治を基調とした宝暦改革を断行。藩債整理に成功した。
9 (7)	重晟(しげあきら) 寛保3年(1743年)～ 文化10年(1813年)	宝暦13年 (1763年)～ 寛政11年 (1799年)	恭昭院	邦姫 陽姫 (ともに徳川家 (尾張))	智岳院 深広院	災害や幕府公役の負担の中、宝暦改革を継承、発展。国産自給体制を強化するほか、祖父・吉長の頃に実現できなかった社会設立を推進、効果をあげる。学問所を城内に創設。歴代藩主の中でも書画に秀で、花鳥画に優れた作品を残している。
10 (8)	斉賢(なりかた) 安永2年(1773年)～ 文政13年(1830年)	寛政11年 (1799年)～ 文政13年 (1830年)	天祐院	泰姫(徳大寺家) ※結婚前に死亡。 (前田家) 孚希宮(ふきのみや)姫 (有栖川宮家)	法体院 翱翔院	国産品の他国販売がすすみ、藩財政は安定。藩内の地誌「芸藩通志」を編集するなど、文化的な面においても成果をあげる。
11 (9)	斉肅(なりたか) 文化14年(1817年)～ 慶応4年(1868年)	天保2年 (1831年)～ 安政5年 (1858年)	温徳院	末(すえ)姫 (徳川將軍家)	泰栄院	天候不順による凶作、幕府の御手伝い、末姫入興、饑饉神社造営などが重なり藩財政が悪化。六会法・藩札切下げで持ち直したかに見えたが、ペリー来航による開国に備える藩政改革に対応できず、三家老建白などを受け、隠居した。
12 (10)	慶熾(よしてる) 天保7年(1836年)～ 安政5年(1858年)	安政5年 (1858年)～ 安政5年 (1858年)	大光院	利姫 (徳川家(尾張))	寿操院	幼いころから聡明で、薩摩藩主島津斉彬の薫陶を受ける。成長してからは一橋派大名との交流を持つなど、英明な若公として藩内外の改革派に期待されていた。斉彬病没の直後に、襲封わずか6か月で急死した。
13 (11)	長訓(ながみち) 文化9年(1812年)～ 明治5年(1872年)	安政5年 (1858年)～ 明治2年 (1869年)	-	峻姫 (浅野 (青山内証分家))	清鏡院	開港後の政局に対処するため、領内巡視による藩内の掌握、改革派の登用、軍制の洋式化など藩政改革を行う。長州征伐の際、幕府と長州との間を周旋した。
14 (12)	長勲(ながこと) 天保13年(1842年)～ 昭和12年(1937年)	明治2年 (1869年)～ 明治4年 (1871年)	-	綱(つな)姫 (山内家)	-	幕末の政局多難の中、長訓を補佐し、朝廷・幕府に対する国事周旋を進めた。廃藩以後、元老院議員、イタリア公使を務めるほか、土族授産、市民教育にも積極的だった。昭和まで生きた大名経験者として有名。

和暦	西暦	藩主	浅野家と広島藩の主なできごと	将軍	日本のできごと
天文16	1547	-	浅野家初代長政、尾張国(現 愛知県)に生まれる。永禄11年(1568年)、弥々(後の末津姫)を正室とした。その姉寧々が豊田秀吉の正室(北政所)であったことから秀吉と義兄弟の関係となる。	-	
天正14	1586	-	長政、秀吉の命により徳川家康の懐柔に成功。近江国(現 滋賀県)大津城に移る。	-	秀吉、関白に任じられる(1585) 秀吉、豊臣の姓を給う(1586) 秀吉の全国統一(1590)
18	1590	-	小田原北条氏攻めに従軍、長政は鉢形城・忍城などを攻め、幸長は武蔵国(現 埼玉県)岩槻城攻めで初陣をかす。長政、伊達政宗の懐柔(小田原参陣)及び検地奉行として奥羽仕置(太閤検地)に力を尽くす。	-	
文禄2	1593	-	長政、嫡男幸長とともに甲斐(現 山梨県)一国22万5千石を給い、甲府を居城とする。	-	
慶長3	1598	-	秀吉の死去にとまない、長政、石田三成とともに、諸將の朝鮮への撤退を実施する。幸長、加藤清正ら武断派の一人として、石田三成など文治派と対立する。	-	豊臣秀吉死去(1598)
5	1600	-	関ヶ原の戦いでは、長政は秀忠に従ったが軍事には関わらず、幸長が徳川方の先鋒として岐阜城を攻略し、本戦では南宮山の押えを任される。戦後、軍功により幸長は、紀伊国(現 和歌山)37万石余に封ぜられる。	-	関ヶ原の戦い(1600)
11	1606	-	長政、常陸国(現 茨城県)真壁に隠居領5万石を給う。(長政没後は、長政三男・長重が拝領し、のちに播磨国(現 兵庫県)赤穂に転封し、赤穂浅野家となる。)	家康 秀忠	家康が江戸に幕府を開く(1603)
16	1611	-	幸長、豊臣家と徳川家の融和を図り、豊臣秀頼と徳川家康との二条城での対面を実現し、当日は加藤清正とともに秀頼に従う。		
18	1613	-	長晟、兄・幸長の病死を受けて遺領紀伊37万石余を相続し、足守領を返上する。大坂冬の陣(1614年)、大坂夏の陣(1615年)で軍功を上げる。		大坂冬の陣(1614) 大坂夏の陣(1615)
元和2	1616	-	長晟、家康の三女振姫を正室を迎える。翌年、嫡男光晟生まれる(家康の外孫)。		
元和5	1619	長晟	長晟、福島正則の改易を受けて安芸一円・備後国内八郡42万6千5百石余を領し、浅野家初代広島藩主となる。広島城入城(旧暦8月8日)。同年、家老の知行割を行う。		
6	1620		家臣団への知行割を行う。城下に泉邸(縮景園)を築造開始。		
寛永4	1627		光晟、江戸城にて元服。松平の姓と偏諱(へんき)を賜う。安芸守に任じられる(以後代々続く)。※偏諱:実名の一字字目は将軍の名の一字を受けること。	家光	
9	1632	光晟	光晟の襲封にとまない、庶兄・長治に5万石を分知し、三次支藩を立てる。		
10	1633		幕府巡見使の巡視を契機に領内の街道・宿駅・御茶屋の制を整備。		
11	1634		光晟、自ら領内を巡見する。以後藩主の巡見が代々の慣例となる。		
15	1638		藩領の蔵入地村に地詰(内検地)を実施する。給知村では正保3年(1646年)に実施し、約5万石を打出す。		参勤交代制度確立(1635) 島原・天草一揆が起こる(1637) 領国の完成(1641)
正保3	1646		広島に東照宮を建立することを許される。慶安元年(1648年)、城下尾長山に遷宮する。		生類憐みの令(1687)
元禄14	1701	綱長	赤穂藩主浅野長矩、江戸城内にて吉良義史を斬り、即日切腹。分家赤穂浅野家断絶(宝永7年再興)。	綱吉	
宝永元	1704		革屋町に銀札場を設け、初めて銀札を発行、通用。宝永4年(1707年)幕府の藩札通用停止令により銀札の通用停止。		
3	1706		広島城下三川町に紙座(紙蔵)を設け、藩内の紙楮に専売制を実施。		
6	1709	吉長	吉長、職制改革を実施して家老を執政職から除いて顧問とし、代わりに執政職(年寄数名)に人材を抜擢した。藩、甲州流軍学を採用。	家宣	正徳の治が始まる(1709)
正徳2	1712		吉長、郡方新格を定め、郡奉行下の代官制度を廃止し、新たに郡代、所務役人、頭庄屋を任命。領内に目安箱を設置する。	家継	
享保元	1716		藩の徴租法を土吏制から定免制とする(年貢率の固定)。	吉宗	享保の改革が始まる(1716)
3	1718		農民による改革への反発が起こり大きな一揆となる。そのため郡方新格を廃し代官制に、定免を廃して土吏に戻す。請定銀の制(役所の予算化)を一部の役所から始める。(享保18年全役所に適用)		
4	1719		三次支藩4代目藩主・長経の死去により三次支藩断絶。所領5万石は本藩へ返却。長経弟・長寛(ながざね)に三次5万石分封が許されるが、翌5年死去により再び三次支藩断絶。遺領は本藩へ還付。		
7	1722		代官を止め、郡奉行・郡廻りなどを置く。		目安箱を設置する(1721)
10	1725		広島城下、白島の稽古屋敷に講学所(享保19年に講学館と改称)を設けるが、寛保3年(1743年)経費節減のため閉鎖。		
15	1730		吉長、弟・長賢に蔵米3万石を与え、青山内証分家とする。銀札(藩札)を発行。		
20	1735		吉長、飢饉対策に社倉を検討するも実現せず。		
元文元	1736		地概(幕府へ届け出ない検地)を実施(元文2年廃止)。		
延享4	1747		安芸郡矢野村尾崎八幡宮神官香川将監が、藩で初めて社倉法による社倉を設立。天明6年(1786)領内町村に社倉法成就。	家重	

和暦	西暦	藩主	浅野家と広島藩の主なできごと	将軍	日本のできごと		
宝暦2	1752	宗恒	宗恒、襲封し、財政緊縮を柱とした宝暦改革を始める。				
3	1753		飢饉対策として、困粃の制実施。				
4	1754		諸役所の請定銀(年間予算)の削減を実施。				
8	1758		宝暦の大火が起きる。広島城下の半城が罹災、縮景園も建物や樹木の多くを焼失。				
明和7	1770	重晟	重晟、社倉を領内全域に広める。	家治	田沼意次、老中になる(1772)		
天明2	1782		広島藩、頼春水・香川南浜などを登用し学問所を興し、翌日から格式講釈を行う。		天明の大飢饉(1782)		
5	1785		藩は学問所の教育を朱子学に統一。	家育	寛政異学の禁(1790)		
8	1788		泉邸(現在の縮景園)の改修を行い、ほぼ現在の形となる。		異国船打払令(1825)		
文化8	1811	斉賢	広島藩、幕府の許可のもと城下・尾道・三原・宮島に油座を設けて専売制の強化を図る。	家慶	天保の改革始まる(1841)		
天保4	1833	斉肅	斉肅に將軍家齊女末姫奥入。		アメリカ使節ペリー来航(1853)		
6	1835		家祖・長政夫妻を祭神とする二葉山御社造営、饒津大明神勧請。			日米修好通商条約締結(1858)	
14	1843		財政窮乏解決策として六会法を実施。			家定	桜田門外の変(1860)
弘化4	1847		平価切下げの新銀札(藩札)発行(四十掛)。	慶喜			薩長同盟締結(1866)
嘉永5	1852		平価切下げの藩札発行(五百掛)。		-		大政奉還・王政復古の大号令(1867)
6	1853		三家老、藩政改革を求める建白書を提出する。				-
文久2	1862	長訓	国事周旋及び攘夷周旋の内勅を受ける。長訓、藩政改革(軍制・郡制)の実施を訓令する。			家茂	
3	1863		英国汽船を購入し震天丸と命名。藩の軍制を西洋式に改竄。攘夷実行のため藩内海岸の要地7か所に砲台を設置。薩芸交易はじまる。	第二次長州征討のため、征討諸軍が広島に集結するが、広島藩は出兵を拒否する。			
元治元	1864		禁門の変。京都御所の日之出門を警衛。幕府と長州藩の間の文書伝達を命じられる。第一次長州征伐。12月末征長軍解陣。				
慶応2	1866		第二次長州征討のため、征討諸軍が広島に集結するが、広島藩は出兵を拒否する。	慶喜	薩長同盟締結(1866)		
3	1867		薩長芸三藩の同盟締結。土佐藩に次いで大政奉還の建白書を幕府に提出。世子長勲、小御所会議に出席。議定となる。		大政奉還・王政復古の大号令(1867)		
明治元	1868		戊辰戦争始まり、錦旗を給う。鳥羽・伏見の戦いに参加。松平慶永・山内豊信・島津忠義・細川護久と連署で開国を建白。	-			
2	1869	長勲	版籍奉還の請願が受理され、長勲は広島藩知事となる。	-			
4	1871		廃藩置県、広島藩は広島県となる。長勲は広島藩知事を辞し、東京への移住を命じられる。	-			
11	1878	-	長勲、私立浅野学校設立(後に山田十竹に引き継がれる。現在の修道学園)。	-			
15	1882	-	長勲、第2代イタリー王国公使に任じられる。	-	大日本帝国憲法公布(1889)		
大正2	1913	-	長勲、日本最初と言われる私立美術館「観古館」を泉邸内に開設。	-	第一次世界大戦(1914)		
15	1926	-	長勲、私立浅野図書館(広島市立中央図書館の前身)を開設。昭和6年(1931年)広島市に寄贈。	-	関東大震災(1923)		

編集・発行：広島市立中央図書館（令和元年（2019年）9月発行）／監修（p1～4、6）：広島県立文書館 西村 晃 研究員（エルダー）

考文庫刊：『芸翁傳』上・下（坂本辰之助／著 警書堂書店 1967年）、『広島縣編年史（傳）』第5冊迄／著 東京芸文館 1925年）、『陣山公自伝年事蹟』上（小森竹太郎／編 林保 1932年）、『新修広島市史』全7巻（広島市／編 広島市役所 1958-1962年）、『寛政修撰諸家遺稿』第1新訂（統群書院復成完成会 1961年）、『新編藩論譜』第2-3巻（新井白石／著 人物往来社 1967年）『新編大日本文書 家わけ 第70巻』（東京大学文学部編纂所／編 東京大学出版会 1968年）、『三冊市史』第4巻 資料編1（三原市役所／編 三原市役所 1970年）、『芸芸叢刊』復刻版（林保 1976年）／『芸文館大日本文書 家わけ 第70巻』（『広島県史』全6巻（広島市／編 名著出版 1972年）、『広島県史』全28冊（広島県 広島県 1972-1984年）、『新編藩論譜』第9巻（新人物往来社 1976年）／『広島県大市史』上巻（中国新聞刊『広島県大百科事典刊行委員会事務局／編 中国新聞社 1982年）、『昭和初年修善家族系大成』上、下巻（製会館学術資料調査委員会／編 霞会館 1982年-1984年）、『赤穂義士』上巻下巻（赤穂義士顕彰会／編 新人物往来社 1983年）、『江注簿：浅野氏の研究』（阪田直樹／編 広島市中央公共図書館（製作） 1984年）、『関説広島市史』（広島市中央公共図書館／編 広島市中央公共図書館 1989年）、『上田宗簡の世界展』（原田佳子／編 上田流和風堂 1989年）、『二葉山をめぐる郷土誌』（段原公民館郷土史クラブ／編 段原公民館郷土史クラブ 1990年）、『系図纂要』第12冊 上 清和源氏系圖（名著出版 1994年）、『東城町史』第3巻（東城町史編纂委員会／編 東城町 1999年）、『浅野長政とその時代』（黒田和子／著 校倉書店 2000年）、『上田家史資料系図集成 上田家系図調査報告書刊行』政治史、赤松史研究協議会／編 広島市教育委員会 2005年）、『上田家系 慶応三年-明治元年』（正統表（広島県立文書館／編 広島県立文書館 2006年）、『昭和三十五年（昭和）以来の広島市長』（江宮隆之／著 グラツタ 2008年）、『広島県の歴史資料』（広島県の歴史資料編集委員会／編 中国新聞社 2009年）、『日本人の衣食大辞典』（森岡 隆 東京堂出版 2012年）、『讀史大系 第6巻』（木村 健はこ／編 雄山閣 1951年）、『広島県』上井作治／著 吉川弘文館 1915年）、『江戸三〇〇藩物語』中国・四〇〇藩物語（中国・四〇〇藩物語刊行会／洋泉社 2015年）、『広島市東区・西区の歴史の散歩道 改訂版』（広島市の歴史の散歩道ブラスチック研究協議会・二葉の歴史の散歩道ブラスチックアイランドの会／編 広島市東区役所 2016年）、『石臼三成伝』（中野 孝／著 吉川弘文館 2017年）、『浅野氏の広島城入城 400年記念プロジェクト』第1巻（広島市市民文化センター・広島市文化振興課／編 広島市 2018年）は、